

世代を超えた技術の伝承

1 テーマ設定の理由

学校教育目標

地域を支える「心ある技術者」の育成

目指す生徒像

- ①互いに敬愛する ③勤労を愛好する
②創造能力を伸展する ④健康を増進する（平成 29 年度〇〇高等学校スクールプランより）

県内の工業高校における 50 歳代の教諭の方は多くいらっしゃるが、30 歳代、40 歳代になると極端に少ない。職業系高校ならではの特殊な機械や大型の設備等を取り扱う上で、より安全に、かつ生徒達に教えながらの操作を行うためには、より多くの知識・技術や豊富な経験が必要となる。しかしながら現在、工業教員の世代数のバランスは悪く、それらの伝承がなされないまま、日々の校務に追われ、資格指導や取り扱う機械が縮小傾向にあるということが工業高校の課題の一つである。また工業という教科には建築や化学、あるいは電気といったように様々な専門分野があるにも関わらず、学校の異動によってはこれまでと違った分野を教えなければならない可能性もある。したがって、ある程度広範囲に、ものづくりコンテストや技能検定等においての実技指導、あるいは違った専門分野の教科指導ができるように、自分たちのスキルアップをめざす。

2 今年度の取組み

（1）本校の現状

〇〇高校の専門教員の年齢構成は、教諭でいえば私のすぐ下は 20 歳代が一人で、すぐ上は 52 歳の先生というように、30 歳代は私一人である。逆に言えば、残りの専門教諭はすべて 50 歳代となる。この世代のアンバランスは部活動の顧問を決めるときにも問題となって来る。さらに、資格指導や地域貢献活動等、何か新しい取組みを行うときなども、若手の職員に負担がかかる傾向にある。

また、現在の学科とは違った別の学科に変わる可能性や、今まで教えていた分野とは全く異なった分野を教えることになる可能性なども十分に考えられる。

（2）取組みの経過

①平成 29 年 12 月 4 日（月）15：45～17：45

《場 所》

〇〇高校 電子機械科工場

《参加者》

50 歳代教諭 4 名、20 歳代教諭 1 名
30 歳代実習助手 2 名、20 歳代普通科教諭 1 名
学校長

計 9 名

《講 師》

ミドルリーダー養成研修受講者本人



《内 容》

アセチレンガス溶接・溶断における理論・装置・使い方等の講義および説明

②平成 29 年 12 月 5 日（火） 15：45～17：45

《場 所》

〇〇高校 電子機械科工場

《参加者》

50 歳代教諭 2 名、20 歳代教諭 1 名
30 歳代実習助手 2 名、30 歳代常勤講師 1 名
学校長 計 7 名

《講 師》

ミドルリーダー養成研修受講者本人

《内 容》

アセチレンガス溶接・溶断の実技指導



③平成 29 年 12 月 7 日（木） 13：00～14：30

《場 所》

〇〇高校 小会議室

《参加者》

50 歳代教諭 1 名、20 歳代教諭 1 名、30 歳代実習助手 2 名
ミドルリーダー養成研修受講者本人 計 5 名

《内 容》

研究協議

（3）取組みの成果・課題

20 歳代から 50 歳代までの教員がバランスよく集い、アセチレンガス溶接・溶断の講習会を行った。校長先生や普通教科の先生も参加していただくことになり、学校内で行う取組みとしては、PR できた中で研修を行うことができたのは大きかった。やはり、一部の人間が取り組んでいるというよりは学校全体を取り込んで行う方が、皆さんの協力を得ることができるし、今後の展開も進めやすくなる。また、学校としての課題や問題点を共有することで、問題解決に向けて全員で取り組んでいくことができる。ただ、このような講習会を開催しようと思うと、人を集めることが困難であり、全員の時間を合わせることが一番難しかった。

参加していただいた先生方からは、「このような機会が増えるといいね」「ガス溶接は使えるようになったかった」などと嬉しい感想をいただき、今後の取組みにも意欲が湧いた。ただ取り組む上で重要なことは、教員一人ひとりがこのような、学校の抱える問題に対して正面から向き合い、情報や意見を共有すること、そして問題解決へと全員が協力して取り組むことである。

3 今後の展開

工業という教科には、建築や土木・電気・化学・機械・情報等さまざまな分野がある。我々工業教員は「工業」という教員免許で教壇に立つ以上、あらゆる分野を教えることができなければならない。ま

してや学校再編などで学校が減っていき異動を余儀なくされれば、以前教えていた分野とは異なった分野を教えなければならない可能性は十分にある。また、現実問題として工業教員の世代のバランスは決してとれているとは言えない。であるからこそ、世代間あるいは世代を超えた知識・技術の伝承は急務であると考え。したがって今回のようなテーマを絞った講習会等はこれからも実施していくべきであるし、互いに教え合う機会を増やしていくべきであると考え。ただし、このようなことを行っていくためには勿論、同僚の先生方の理解と協力は必要であるし、何といてもそれを行うだけの時間が必要となる。したがって考査期間の放課後等を有効に利用するとともに、学校全体で取り組める環境を作り上げていく必要がある。